

第5学年 国語科学習指導案

平成27年7月14日(火)2校時

担任

司書教諭

学校司書

1. 単元名 「立場を決めて討論しよう」(東京書籍 5年)

2. 単元の目標

論題に対して二つの立場に分かれ、互いの主張とその理由を明確にしながら、計画的に討論をすることができる。(話す・聞く)

3. 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「論題に対する自分の立場を決めて討論する。」を位置づけた。討論を深まりのあるものにするためには、ただ理由を挙げるだけでなく、説得力のある理由を挙げる必要がある。そこで、討論に至る準備段階で、事実と意見を区別し、説得力のある理由を収集・選別したり、相手の主張の理由や相手からの質問を想定したりする時間を設け、討論に必要な力を身につけさせたい。そうすることで「互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。」(A話す聞く(1)オ)ができると考える。

4. 単元の評価規準

- ・論題に対する自分の立場を明確に主張しながら討論をするに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・互いの主張やその理由を明確にして、相手の意見をよく聞きながら討論をしている。(話すこと・聞くこと)

5. 指導計画(全10時間)

	時	主な学習活動	主な教師の支援と指導上の留意点 (担任○ 司書教諭◎ 学校司書☆)
第一次	1	1 学習の見通しを立てる。 ・論題に対する立場とその理由を、互いに主張しながら計画的に討論をするという学習課題を確かめ、学習活動の見通しを立てる。	○討論のイメージをつかませるために、希望する児童で教科書P80、81のモデル討論をさせる。 ○討論までの活動の流れを掲示して示す。 ○ワークシート1に論題候補を書いておき、賛否の立場を決めさせる。→それをもとに教師がグループ分けする。 (ワークシート1)
第二次	2	2 論題を選び、自分の立場を決めて意見文を書く。 ・論題に対する自分の立場をはっきりさせ、その理由をメモに書き出す。書き出した理由の中から、説得力のある理由を三つ選ぶ。	○次の観点で三つの理由を選ばせる。①多くの人がうなずく例があげられる。②根拠となる数値や資料を示せる。③どちらにも当てはまる理由になっていないか。 ○理由が思いつかない児童には、教師がいくつか例を出したり、資料を紹介したりする。 (ワークシート2メモ)

	3	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のメモをもとに、論題に対する自分の立場を主張する意見文の構成を考えて意見文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○接続語や文末表現の例を示す。 ◎事実と意見を区別して構成や文章表現をするようにアドバイスする。 (西村さんの意見文、ワークシート3意見文)
第三次	4	<p>3 グループに分かれ討論の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの主張の理由を話し合っ て決め、「主張メモ」に書く。 ・理由として使える資料を準備する。 (図書、新聞、アンケート、インタビュー) 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの意見文を読み、説得力のあつた理由に付箋を貼り、グループで話し合い易くする。 ○新たに考えた理由があれば出すように促す。 ○ここで選んだ理由しか討論で使えなくなることを確認する。 ☆理由として使える資料があれば紹介する。 (討論事例を拡大したもの、ワークシート4主張メモ)
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・相手からの質問を予想して、どのように答えると主張を守ることができるかを話し合い、「主張メモ」に整理する。 ・主張を守ることができる資料を準備する。 (図書、新聞、アンケート、インタビュー) 	<ul style="list-style-type: none"> ○質問に対してずれた観点で答えている例を示し、質問に正対して答えることが大切であることを伝える。 ☆理由として使える資料があれば紹介する。 (ワークシート4主張メモ)
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場の理由とそれに対する質問を考え、「予想カード」に書く。 ・相手の理由への質問で使える資料を準備する。 (図書、新聞、アンケート、インタビュー) 	<ul style="list-style-type: none"> ○理由の観点とずれている質問例を示し、理由の問題点を指摘することが大切であることを伝える。 ○相手グループの理由が予想できない場合は、「主張メモ」の理由を交換させ、それに対する質問を考えさせる。 ☆相手への質問で使える資料があれば紹介する。 (ワークシート5予想カード)
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・討論に向けてのカード、資料作りや発言練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○討論の役割分担を確認する。 ○主張時の掲示用カード作り、発言練習など討論の準備をさせ、戸惑っているグループに助言する。
第四次	8・9 (本時)	<p>4 論題ごとに討論会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論題に対するグループの立場の主張とその理由を明確にしなが ら討論をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○司会は慣れていないので、スムーズにできるように司会には教科書を参考にさせる。 ○教師が発言を板書し、討論の論点ができるようにする。 ○審判には、簡単なメモをとりながら聞かせる。 ○質問や理由が正対してない場合は、気付いた審判に話させるか、出ない場合は教師がまとめて触れる。
	10	<p>5 単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り良かった点や改善すると良い点を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それまでに学習した討論で大切にしたい観点をワークシートでチェックし、自己評価させる。 ○できるようになったことを評価し、満足感を持ちながら学習が終えられるようにする。

6. 本時の学習（10/11時）

(1) ねらい

- ・自分たちのグループの立場をより説得力があるように明確に主張し、相手の立場の主張に対して質問したり、相手からの質問に答えたりすることができる。(賛成・反対グループ)
- ・ルールに従って話し合いが行なわれるように進行したり、主張の理由付けの説得力や質問の応答の説得力などを考え、それぞれのグループの良さを判定することができる。(司会・審判)

(2) 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点や支援 (担任○ 司書教諭◎ 学校司書☆) ★評価規準
<p>1 学習のめあてを確認する。 ◎自分たちの立場を明確にしてより説得力のある討論をしよう。</p> <p>2 討論2回目を行う。 論題「 〈討論の進め方〉 ① 賛成グループの主張（2分） ② 反対グループの主張（2分） ③ 作戦タイム（5分） ④ 賛成グループへの質問と答え（3つの質問） ⑤ 反対グループへの質問と答え（3つの質問） ⑥ 作戦タイム（5分） ⑦ 賛成グループの主張（2分） ⑧ 反対グループの主張（2分） ⑨ 審判による判定 」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※用意したメモをもとに、理由をはっきりさせて説得力のある意見を言うぞ。 ※自分の役割をやり遂げよう。 ※しっかり聞いて、説得力があったかどうか後で伝えよう。</p> </div> <p>3 振り返りをする。 (討論をしてみたの感想、審判としての感想を言う。)</p>	<p>○本時のめあてを確かめる。 ○討論の仕方を確認する。</p> <p>○各グループ4人いるので、全員が発言できるように発言場所を分担させる。 ○司会、討論者がどのように話して良いか困っている場合は助言する。特に討論者が言いにくい場合は、必要に応じて、時間を止めて助言する。 ○討論の進め方はあらかじめ掲示しておく。時間もタイマーを使って分かるように表示する。 ○事前に児童が書いた主張と主張の理由を黒板に貼り、話している内容が分かりやすくする。また、それにより質問や答えがそれぞれ正対し、討論がかみ合うようにする。</p> <p>○審判には、それぞれのグループについて、説得力があった点や助言を述べさせる。勝ち負けを判定しない。できるだけ審判全員の意見を聞く。 ○話し方も大切だが、それにこだわり過ぎず、話す内容で評価するようにし、討論者も審判も話し合いを楽しめるようにする。</p> <p>★自分たちの主張や理由を明確にして、討論をすることに関心を持ち、意欲的に討論することができたか。(観察、ワークシート)</p> <p>★双方の主張について説得力を重視しながら討論を聞き、司会や判定をすることができたか。(観察、ワークシート)</p>

(3) 研究の視点

- ・個々の経験や図書資料などを情報として活用し、事実と意見を区別しながら討論を進めたことは、児童のより主体的に学ぼうとする姿につながったか。

〈討論の形態〉

